

6. 校内の整備

(1) 資料と情報の収集

同調査によると、小学校で3割中学校で2割の教師が、鑑賞学習を進めるために必要な改善点は「鑑賞の学習指導に関する実践方法の開発と啓蒙」であるとしている。鑑賞学習の方法については、既に多様に開発されてきており、書籍や Web 情報、アートゲームの販売、各地のセミナーなどがある。それらの情報を集める中から、眼前の児童生徒にふさわしいものを選択することになる。

また、授業で扱う資料の収集も必要な準備である。近隣に美術館等もなく映像資料の購入も難しい学校もあろうが、教材になるカレンダーや自然美の写真、図版、地域の情報などの資料の収集をしておく必要がある。集めた資料の整理に取り組むことも鑑賞の学習につながる。

(2) 指導計画への位置づけ

校外学習の実施や限られた時数の中で効果をあげるためには、計画が重要である。学校や地域の実態、児童生徒の発達段階や鑑賞経験などを考慮しながら、継続的に鑑賞を重ねることが大切である。アレナス流も定期的に授業を行うことが重要で、授業が規則的に繰返されれば、それだけ良い結果が出るはずだとしている。^{*36} 紹介した事例でも、他の教科も含めて効果的な関連を考えながら計画的に実施されていた。

(3) 鑑賞の校内環境づくり

図画工作科・美術科の教科経営では、それぞれの特別教室の環境整備に加えて、廊下や階段の踊り場のスペース等の美的環境づくりも大切な要素である。展示効果を考えて、授業の作品展示、収集した資料の掲示、季節感のあるコーナー作りなど、日常生活の中で「見る」ことに関心を高める工夫を大切にする。

美術館に出かけなくても、美術作品を学校に持ち込んで来る「学校が美術館」という実践がある。これも興味深く、意義ある実践であるが、作家や美術館を巻き込んだ大きなプロジェクトになりがちで、条件が整わないと難しかりう。発想は、大いに参考にしたい。^{*37}

学校という施設・箱ものを視点を変えて見直す造形遊びの題材がある。作品展示の場として、学校を見直し、その活用の仕方を十分に研究しておくことも必要である。転用可能な教室や空きスペースがあれば、作品展の開催もできる。校区にある、幼稚園・保育所・高等学校などの作品を展示すれば、異年齢の理解や交流にも効果的である。地域の人々の作品を展示したり、鑑賞に招待したりすることは、学校を地域に開くことにもなり連携を進める上でも良い効果が期待できる。

*36 前掲書、『MITE!』、p.52

*37 四宮敏行、『学校が美術館』、美術出版社、2002、これは発想から実現までの記録だが、ビデオ『IZUMIWAKU』（学校美術館構想展）長田謙一 監修、Remex、1994 は映像で分かりやすい。